

平成29年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現
-------------------	--	----------	---

評価項目	評価の具体項	現状	年度当初		目標達成のための方策	経過・達成状況	評価結果		
			目標(年度末の目指す姿)	3月			評価	改善方策	
1	学力的向上	① 授業改革と学力の向上	【授業改革】 ・各科・教科によるALを用いた公開授業の実施 ・学校評価アンケートによる生徒の授業満足度は概ね良好(75%) 【学力の育成】 ・基礎力診断テストについては基礎力不足層(Dゾーン)が全学年ともに約45%を占有、基礎学力の定着に課題 ・全国工業高校校長会主催標準テストについては成績向上に課題 【学習環境の整備】 ・教室整備・教室美化は概ね良好。 ・授業前の着席と挨拶は概ね良好。	【授業改革】 ・ALを実践する職員数の増加 ・進路を切り開く主体的な学びの実践 ・ICTを活用した分かりやすい授業づくり ・80%以上の生徒が授業に満足と回答 ・ICT環境の整備 【学力の育成】 ・進研模試において、1・2年生3教科SS48以上、3年生5教科SS46以上の生徒が各学年で10名以上(理数工学科) ・基礎力診断テストにおける、基礎力不足層(Dゾーン)の減少(全体の40%) ・専門教育に対応する数学力の定着 【学習環境の整備】 ・「5S・あさひ」を励行し、落ち着いた学習環境づくりを率先	【授業改革】 ・ALの実践を深め、実践につながる研修会を年2回実施 ・他校で開催される学習理論研修への参加を奨励 ・図書環境のWi-Fi環境の整備、タブレット端末の活用と研修会の実施 ・授業評価アンケート結果に基づく授業改善の実施 【学力の育成】 ・進学補習の計画的実施 ・基礎力養成に向けた放課後補習及び個別指導を、各科・各教科で実施 【学習環境の整備】 ・教室美化、授業準備と挨拶の徹底				
		② 主体的な学習態度と実践力の育成	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間を含めた全学習時間の増加が課題 (自宅学習時間:理数工学科141分、工業学科89分) ・教科書やノートなど、教材の授業前準備に課題 ・課題提出等の期限厳守に課題 ・生徒の進路目標の早期設定に課題	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間の増加による主体的な学習態度の育成 (自宅学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ・具体的進路目標の設定による進路意識の向上 ・進路を意識した座学と実習の効果的な授業展開	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・家庭での情報端末の利用を減らし、自宅学習時間を確保 ・週末課題等の定期的且つ適度な量の課題提示 ・学びの延長と進路実現のための資格検定受検・取得の推奨 ・継続的な個別面談による進路意識の向上				
2	豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	【人権教育・性教育】 ・WYSH教育公開LHRを1年生で実施 ・性教育LHRを全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 ・特別支援を必要とする生徒の増加、支援方法に課題 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・職員研修で全職員に周知、クラス目標を設定 ・クラスづくり・LHR・面談等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 ・いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ・生徒が相談しやすい体制を整備しているが、悩みを抱えている生徒は少なくない理解 【指導力向上の職員研修】 ・6割弱の職員が人権教育に関する校外研修「一人一研修」に取り組んだが、LHR等への研修成果の還元課題 ・情報提供は速やかに実施	【人権教育・性教育】 ・人権意識が高揚し、他者の人権や存在を尊重できる生徒の増加 ・生徒の実態に合った支援方法の確立 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・自己理解が出来て、集団規律が順守できる生徒の増加 ・いじめが無く、学校生活を安心して送れる生徒の増加 ・悩みが相談しやすい雰囲気確立と、勉強が楽しいと思える生徒の増加 【指導力向上の職員研修】 ・一人一研修の参加率を9割以上 ・研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性教育】 ・人権教育LHR・性教育LHRの充実 ・WYSH教育LHRを1年生に実施 ・特別支援教育支援員との連携 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・自己理解が出来て、集団規律が順守できる生徒の増加 ・ハイパー・QUを分析し、生徒理解とクラス運営に活用 ・いじめアンケート等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等、関係分掌と情報を共有 ・教職員や外部関係機関との連携を強化、充実 【指導力向上の職員研修】 ・研修会や講演会の情報をこまめに情報発信し研修会への参加を促進し、参加資料を共有化 ・人権教育LHRの指導案の充実				
		② 健全な心身と社会貢献精神の育成	【基本的生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」の考えは生徒・職員に浸透したが、生徒の主体的な取り組みに課題 ・挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ・学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ・頭髮検査で各回不合格となる生徒が全校で平均25.4名 ・正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ・活動が活発化しており、その流れの継承が必須 (平成28年度実績:とっとりサイエンスワールドボランティア52名、テクノボランティア26名、若桜鉄道SL整備ボランティア9名、献血街頭キャンペーン7名、ボランティア体験事業6名等) 【部活動、生徒会活動】 ・生徒会役員は各種活動に参加しており、その活動を各クラスに拡大することに課題 (平成28年度実績:高校生マナーアップさわやか運動、等) ・平成28年度部活動実績:中国大会出場者数132人(平成27年度より16人増加) 【環境改善】 ・TEAS活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ・昨年度、登下校時の自転車による事故が5件あり、交通ルール・マナーの遵守に課題 ・SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等の取り扱いに課題 ・携帯電話とスマートフォンの「校地内での使用禁止」は概ね定着	【基本的生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」に主体的に取り組める生徒の増加 ・いつでもどこでも誰にでも自分から挨拶できる生徒が8割 ・規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ・頭髮検査の不合格者数半減 ・正しい制服の着こなしの定着 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の参加者、昨年比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員の活動と生徒会活動の活発化 ・部活動において、平成28年度の中国大会出場者数の維持 【環境改善】 ・廃棄物は2014年度比10%減、電力消費は2010年度比13%減 【安全教育】 ・交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得 ・登下校時の無事故 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上	【基本的生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」の日の継続 ・生徒・職員によるあいさつ運動の推進 ・日常的頭髮・服装指導の徹底 ・頭髮検査の実施と事後指導の徹底 ・問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の場を広げ奨励 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員、生徒会役員の体育祭、文化祭、球技大会への積極的参加 ・部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ・標語、環境LHR、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 【安全教育】 ・全職員による朝の交通指導の継続 ・各種安全教室の実施 (携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等)				
3	キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	【人材育成】 ・鳥工版デュアルシステムを3企業で実施 ・企業見学を工業関連企業21社・学校関係2校・公共施設4箇所実施 ・インターンシップでは全体の事前説明会、科別説明会を実施しルール・マナーの指導の徹底 ・実習後の測定機器、実習室等の整理・整頓は各科とも定着 ・資格試験対策にも映像教材を活用、電子組立は前期合格率70% ・中国地区高校生溶接技術競技会へ初出場 ・高校生ものづくりコンテスト県予選を通過、3部門で来年度の中国大会への出場権を獲得 ・電子回路組立部門では中国地区大会を制し全国大会へ出場及び、県大会連覇、今年度の中国大会、若年者ものづくり大会の出場権を獲得 ・資格・検定ガイドブックを4月中旬に配布 ・多くの科において、早朝・放課後に資格補習を実施し、一人一資格取得は概ね達成 ・測量士補合格者7名は過去最高 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入などの添削が不十分 ・提出期限の前日確認指示はできていないが、未提出者への提出指導の充実	【人材育成】 ・地域の勤労観、職業観の育成 ・「5S」の定着 ・生徒の専門的な知識や技術の向上 ・卒業までに一人一資格以上を取得 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポートの内容と書き方の向上 ・レポートなど提出期限の遵守	【人材育成】 ・キャリア教育充実のため、鳥工版デュアルシステム、企業見学やインターンシップの内容の精選・充実 ・実習や課題研究を中心とした5Sの指導 ・高校生ものづくりコンテストへの参加の奨励と指導 ・資格・検定についての意識を高めるためのガイドブックの配布 ・全生徒の一人一資格の達成に向けた資格取得のための補習の実施 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入による指導の実施 ・提出期限について前日に確認の指示				
		② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学の実施 ・社会人講師を招いた授業実施 ・進路LHRの実施 ・外部講師を招いた就職ガイダンス等の進路行事を実施 【進路指導の徹底】 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、結果活用 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 ・進学補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・個別進路面接を2年生の3学期から開始 ・10人面接の実施時期を早め、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・理数工学科3年生の進学検討会を7月・11月・1月に実施 ・国公立大学への進学は現役4名、浪人4名の計8名 ・就職の一回目選考試験合格率は92%(平成27年度82.2%)で、前年度以上の結果	【職業意識の育成】 ・地域や企業と連携した活動及び校内外の進路行事等を通じ、生徒の職業観、勤労意識の育成 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で定め、目標に向けた日々の取組による生徒の学力及びコミュニケーション能力の向上 ・進学は10名以上が国公立大学に合格 ・就職の一回目の選考試験合格率90%以上	【職業意識の育成】 ・インターンシップ実施において、学科の専門性と一致した企業の確保と、効果的な事前指導と事後指導の実施 ・企業見学等で訪問企業が重複しないような調整と、進路決定までにより多くの企業を知る機会の確保 ・キャリア教育の観点から企業見学と、進学後を見据えた進路決定の支援 ・社会人となることへの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種進路行事への参加 【進路指導の徹底】 ・3年就職希望者への全職員による10人面接の早期実施 ・進路希望調査の定期的な実施と、保護者と共に生徒の進路の検討、再確認 ・改定した「進路の手引き」の活用による、進路LHRの充実 ・校内進路HPの構成の見直しと、進路選択への有効な情報の提供 ・具体的な将来像を描くための、校内での企業・学校説明会の実施 ・ポートフォリオの活用と、日々の取組と将来の目標との定期的な振り返り、自己実現への意欲の喚起 ・理数工学科では放課後・土曜日の進学補習を実施 ・個別進路面接を2年生の3学期から開始、3年生4月時点での進路意識高揚				
		③ 地域や産業界との連携強化	【人材育成】 ・企業見学、インターンシップなどの研修における生徒への事前・事後指導の強化 【情報発信】 ・出前授業を北中、湖東中などで実施 ・中学生や地域へ向けて鳥工TECを実施。参加者、見学者も多く盛況 ・学校HPの更新による情報発信が昨年度より改善されたもののまだ途上 【地域との連携】 ・テクノボランティアは掃除などが好評 ・桜ヶ丘グリーンゾーンでは多くの生徒が参加(保護者・職員も含めて約200人) ・地域の行事などへの協力も例年通り実施 【PTA活動の推進】 ・各事業への保護者の参加状況は概ね良好。呼び掛けにまちこみメールなどを利用したが、行事によっては効果薄	【人材育成】 ・企業が求める人材や地域産業の担い手の育成 ・生徒が個性を活かせる企業への就職 【情報発信】 ・「ものづくり」の体験を含めた地域や小学校・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ・各種事業を通じて地域と連携した貢献活動の実施 【PTA活動の推進】 ・本校の教育活動への理解の深化 ・本校の生徒指導方針に則った生徒の見守り	【人材育成】 ・企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステムなど事前事後指導の充実 【情報発信】 ・各事業、学校行事などの情報をHPで発信する回数の増加 ・出前授業の内容の充実 【地域との連携】 ・生徒会などの協力を得ながら、地域に対する積極的なボランティア活動 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールでの広報の支援の継続実施 ・PTA活動の深化、科別PTAの内容の充実 ・保護者への生徒指導方針の周知				

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ:挨拶・作法・人の話を聴く WYSH教育:性に関する教育 ハイパー・QUアンケート:よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート デュアルシステム:学校の授業と並行して企業で学習するシステム 鳥工TEC:文化祭における各科のものづくりの紹介 AL:アクティブ・ラーニング

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]